

### 機関誌『さざんか』の歴史

## 内容

- 理事長より
- 法人の取り組み
- 事業所探訪 (かしの木工房 こはま)
- 突撃！隣のグループホーム  
(あじさいホーム1)
- 事業所だより
- 事業所市民見学会
- 後援会会長より
- 人事異動
- SanQからごあいさつ・日誌
- 看護師、栄養士の知恵袋・編集後記

発行 社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会/宝塚さざんか福祉会後援会  
 運営事業所 宝塚さざんかの家 宝塚あしたば園 宝塚けやきの里 ワークプラザ宝塚 宝塚めふプラザ  
 かしの木工房 こはま 宝塚くるみの里 いきいき宝夢 さざんかヘルパーステーション  
 さざんかグループホーム 地域生活支援センター (楽樹)  
 宝塚市障害者就業・生活支援センター (あとむ) 相談支援センター (だんぼ)  
 法人事務局/後援会事務局  
 宝塚市安倉西3丁目1番5号 宝塚さざんか福祉会 電話0797-83-6544 FAX0797-83-2510

# グループホームの消防法改正への 対応が完了しました。

理事長 松井美弥子

日頃は当法人宝塚さざんか福祉会の運営にご支援とご協力賜りまして誠にありがとうございます。当法人では、平成19年10月より育成会運営のグループホーム12か所を引き継ぎ、現在20か所のホームを運営しておりますが、平成27年の消防法の一部改正に伴い、既存のホームの建物内12ホームについてはスプリンクラーを平成30年3月31日までに設置をしなければなりません。

建物の条件等で助成金を得て設置できたのは3ホームのみで、残り9ホームについては、幸運にも市内の4人の地主の方の御厚意でホーム用の建物（4棟）を建て当法人へ貸して頂く契約ができました。この4件の賃貸契約に伴う諸経費や引越等の諸費用の支出は大きく膨らみ法人としては運営資金の圧迫はありましたが、利用者の皆様が新ホームへ引越後も以前のホームと同じように安心して穏やかに暮らして頂けている事に安堵しております。

宝塚さざんか福祉会も法人創立40年を経て、設備等の老朽化と利用者の高齢化、更に重度化等で、修繕や改修の必要な箇所が次々と生じております。私自身も会員ですが、宝塚さざんか福祉会後援会では利用者や法人を応援するために設立されたこと記憶しております。公の助成金も厳しい時代になっております。知的に障害がある人達が、安心して利用できる働く場と生活の場の充実のために、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

# 高齢者も障害者も利用できる 「共生型サービス」誕生へ

事業所部 部長 上江洲 薫

2016年9月、厚生労働省はホームヘルプ・デイサービス・ショートステイの在宅サービスを、障害福祉と介護保険との間で相互乗り入れさせる方針を固めました。2018年度から、障害福祉サービス、介護保険サービスのどちらかの基準を満たせば、両方の指定を受けられる「共生型サービス」が新設されることになったのです。



現在、障害福祉サービスを利用して介護保険サービスは、65歳になれば介護保険サービスを優先的に利用することとされています。状態は何も変わらなくても年齢で分断され、慣れている障害福祉サービスから介護保険のサービスに切り替えなくてはならないのです。いわば、行政の縦割りの弊害。これが障害者にとって大きな負担になるため、制度を改正することになりました。

制度改正により誕生する「共生型サービス」では、介護が必要な高齢者も障害者もケアできるようになります。これは、特に長年、障害福祉サービスを利用してきた人にとっては、歳を重ねても同じサービスを利用し続けられるとい



う点でメリットがありま

65歳以上の方が今までの同じようにサービスを利用でき

きるようにと今年度から共生型事業サービスを取り組みます。昨年9月より「いきいきワクワク班」として、「年齢を重ねるに従い、力の坂道をなだらかに下りてくる人たちとう向き合うか」また、「今までしてきたことを無にするのではなく、少しずつ、自分なりのリズムを作れるようにしていく」という目標を掲げて取り組み始めました。半年が過ぎ、体操・散歩・創作活動等と余暇活動も取り入れながら、楽しい時間を過ごしています。



年末ワークゆるスポー大会の60人での椅子取りゲームではなんと「いきいきワクワク班」のメンバーが優勝しました。健康に気をつけ、一日一日を有意義に過ごせるようにこれからも新しい事にも挑戦していきたいです。

# ぶらぶらり

## 事業所探訪

さざんか福祉会には沢山の事業所がありますが、其々の事業内容やその特徴、どのような利用者さんを対象に、その支援体制は、作業は主に何をしているの、雰囲気は、等々を広報部員が訪問し、シリーズで掲載しています。

### かしの木工房こはま

宝塚市立病院のすぐ近く、国道176号線から見える立派な建物「かしの木工房こはま」（以下かしの木）にお邪魔し、橋本所長にお話を伺いました。



「かしの木」は、さざんか福祉会の6番目の通所事業所として平成24年10月に開設され、それまで「けやきの里」で行われていたクッキー・ケーキの製造を中心に企業提携作業などとしておられます。昨年度まで就労継続B型サービス（定員15名）

と生活介護サービス（25名）の提供をされていましたが、今年度からは生活介護サービス（40名）のみとなりました。

また、「かしの木」の従たる事業所として、さざんか福祉会全ての自主生産品の販売をしていた逆瀬川アピア内の「サザンクオリティ」が今年3月30日をもって閉店しました。それに伴い利用者・職員は「かしの木」に移ることとなり、利用者さんの生活に大きな変化をもたらしただけでなく、「かしの木」にとっても変革を余儀なくされています。

「サザンクオリティ」が閉店したことにより、四月の売り上げは、昨年同期と比べ半減したそうです。固定した販売箇所（7カ所の保育所・市役所・高齢者施設など）以外に、どう販路を広げていくかが課題だと言われます。一方で、今までの販売場所や回数なども精査し、製造量も考えていかなければならないようです。何と云ってもクッキーやケーキには賞味期限があります。数多く作れば良いというものではないので、その調整が難しいとの事です。一つの試みとして、不定期ではありますが、施設の玄関前でワゴン販売を始められました。今まで「サザンクオリティ」で買ってきた方、ぜひ「かしの木」まで足を運んでください。なお、在庫確認のため、事前にお電話して頂く必要があります。

人気のフィナンシェは（有）クルーズより製造委託されて宝塚大劇場やホテル若水、宝塚阪急、不定期ですが西宮名塩SAでも販売されています。又、小麦粉アレルギーに対応したグルテンフリー（こんにやく粉を使用）のクッキーを（株）トレ



テスから委託を受けて製造されています。こちらは「コープ自然派」で販売されているそうです。製菓製造販売に関しては、もう一つ大きな問題があります。食品表示法が改正され、2020年4月までに栄養成分表示やアレルギーの表示等が新しい法律に適合したものでないと販売できなくなります。そのため今後1年半ほどの間に、すべての商品について栄養成分の計算やラベルの変更などいろいろな作業に取り組みないといけないそうです。

「かしの木」は、1階2階の作業室と、2階のクッキー室・ケーキ室の4つのフロアーに分かれて作業をしております。利用者さんはクッキー部門に10名、ケーキ部門は7名、1階作業室は14名そして2階作業室には8名、合計39名に所長及び看護師を含む職員14名で支援に当たっておられます。製菓部門は、衛生面での厳しいチェックもあり、利用者さんの特性等を考慮すると、どうしても限られた人数になってしまいうようです。

作業の様子を見せて頂きました。階段を上がるとすぐに休憩コーナー。かわいらしい雰囲気です。





2階の両端はケーキ室とクッキー室になっています。それぞれの作業室の前室には、泡状の石鹼・水・消毒液が自動で出てくる手洗い場があり、



目の前の壁には利用者さんそれぞれの爪洗い用ブラシがブラツと並んでいます。白衣に帽子・マスクを身に付けた利用者さん、仕上げに職員がローラーをかけ、髪の毛やほこりがついていないか確認されます。徹底した衛生管理が要求される食品部門は、特に利用者さんの体調に気を付けておられます。私たち広報部も作業室の中には入らずに前室から中を見せてもらいました。

広い作業室に大きな作業台が3台、正面に業務用のオーブンが並んでいる中、利用者さんは材料の計量をしたり、焼きあがったフィナンシェを取り出したりと作業に励んでおられました。



製菓作業はいくつもの工程に分かれていますので、利用者さんが出来る作業を職員が段取りしておられ、皆さんそれぞれの役



割を手際よくこなしておられました。美味しそうなたまごにたれ、出来上がったクッキーを思わずつまんでしまわないのかと尋ねましたが、これは愚問！もちろんそんな事をする利用者さんはおられません！



1階作業室では、企業提携作業をしておられます。山積みになされていたのは100均で売られているタオルハンガー。いくつかのパーツを組み合わせて作るのですが、パーツの方向も決められているし、ぐっと力を入れて差し込まなければいけないところもあり、簡単そうに見えてなかなか複雑です。



2階作業室では、配達を終えられた利用者さんが次の準備をしておられました。3月までは「かしの木」で製造し、販売と配達は「サザンクオリティ」でと、きっちり分かれていましたが、今後は製菓部門の利用者さんも販売に行き、お客様と触れ合うことで作業へのモチベーションを高めることに繋がっていきたくと考えておられるそうです。



今日の給食メニューは、魚のフライ・香りカレー・カレースープ・ご飯とミルクティーです。利用者さんは、厨房のカウンターから順におかずやご飯をお盆に並べ、それぞれ好きな場所に座られます。特に席は決まっていないので、事、なんか自由で良いですね。



最後に施設として何を大切にしているのかお聞きすると、利用者さんが楽しく通って来られることを第一に考え、各自の特性を生かし、それぞれが活躍できる場・輝ける場を作ることが職員の役目だと答えてくださいました。従来の製菓作業や企業提携作業を維持しつつ、新しい取り組みを模索しながら進んでいこうとされています。施設独自の生活支援プログラムにも取り組んでいきたいと、橋本所長は意欲的に話して下さいました。

開設当初の方針が利用者さんの状況やサービスマネジメントの変更に伴って変わっていくのは仕方ない事ですが、それによって利用者さんが振り回されることのないように、5年先10年先を見据えた施設運営を期待しています。

かしの木工房こはま  
電話番号 0797-8515172  
(広報部)

# 突撃！隣のグループホーム

## 第十七回 あじさいホーム1

4月25日の夕方、安倉中5丁目にある男性4人の「あじさいホーム1」を訪ねました。スプリングカラーのある新築のホームで、二階は「あじさいホーム2」です。扉を開けると玄関も廊下も広くゆったりとありました。支援員の野田さんに迎えられる野田さんには、お二人がテレビを楽しんでおられました。Aさんは入浴中、Bさんはご自分の部屋で寛いでいられたようでした。この新しいホームには昨年8月28日にオープンし、利用者さんはいくつかのホームから集まって入居されたばかりなので、ようやく馴染んでこられた所だそうです。



支援員さんは、8年目のベテランの野田さんと、2年目の山本さんの二人体制です。お二人に一番大変だと思われる事は？とお聞きすると「利用者さんが不安定になられた時」だそうです。新人の山本さんは、最初の頃は戸惑いも多かったそうですが、「利用者さんが心を開いてくれたと実感した時が一番嬉しく、やりがいがある」とおっしゃっていました。



感じられます」と、晴れやかに語って下さいました。

### \*楽しみの夕食会\*

そうこうしている内に夕食の準備が整い、楽しみの夕食会です。待ちわびていたCさん、ご自分の部屋から出てこられたBさん、入浴を終えさっぱりされたAさん、テレビを見ていたDさんも、いそいそと席に着かれました。今日の献立は、肉じゃが、チーズ入りちくわの天ぷら、レタス添え、おろしチリメンのレモンぼん酢和え、あさりとエノキ茸の味噌汁とボリユーム満点！



皆さん、本当に美味しく食事さされ、全員、完食。調理担当の赤坂さんは、カロリー計算をされ(毎食700〜750cal)各々の食品の持つ栄養効果や健康状態を勘案しての献立作りだそうです。ちなみに入居者の皆さんの平均年齢は44才とか。まだまだ食欲旺盛な年頃です。ね。

### \*個室拝見\*

皆さんの個室も見せていただきました。ベッドの方、和布団の方それぞれ綺麗に整頓され、個性の有るゆったりとしたお部屋でした。

### \*トイレ・浴室・洗濯室拝見\*

トイレも2部屋あり、トイレ内に洗面台が設置され、車椅子も入れるほど広いので安心ですね。洗濯室では、丁度、山本さんが洗濯されています。毎日、大量の洗濯物が有りますので、浴室乾燥機や、乾燥機付き洗濯機なので雨の日も大丈夫だそうです。浴室も広いので入浴のお手伝いもしやすいようです。贅沢な作りでは有りませんが、機能的で、整理整頓されやすいように、必要なものがキッチンと作り付けで備わっている。：そのようなホームでした。

そろそろ、皆さん夕食を終えられ個室に帰られる方、居間でテレビ鑑賞の方、8時には就寝される方等思いおもいに過ごされるそうです。

明日の朝はそれぞれの事業所に送迎バスで行かれます。

訪問中に、さざんかグループホームのサーム管理責任者の稲月さんが来られました。20カ所あるグループホームを4人の主任達で手分けして巡回し、連絡調整や困りごと等々を把握されているそうです。また、ホームごとに保護者会が開かれ、ホームでの様子やレクリエーションの計画などを話し合われるそうです。別に20ホーム全体の保護者会もあるとのことでした。

巡回がある事での安心感を感じつつホームを後にしました。今日は本当に有難うございました。(広報部)

# だ 所 業 事

この度、新年度を迎えるにあたり「宝塚けやきの里」へ異動する事となり、たくさんの「新しい出会い」を経験させて頂いております。

その中でも私と同じく、今年度「けやきの里1年生」の新入所者の方と関わる中で、その方が大好きなサッカーをお昼休みに行うようになり、お互いにとっての日課となっております。

本当に楽しんでにされている様子で、嬉しそうにボールを蹴っている姿を見ると、こちらもうれしい気持ちになります。

「新しい出会い」を通して、新たな経験・学びの機会を頂いている事を職員としての成長につなげ、一日でも早くけやきの里の職員として皆さんのお役に立てるようになれればと思います。



(原田 涼平)

# り よ

## 新しい出会い

### 宝塚さざんかの家

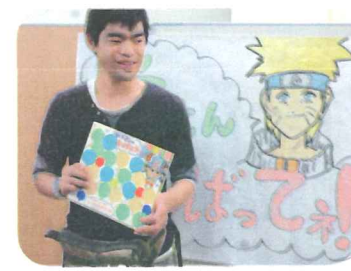
「榮さん 育成事業所ががんばってね！」

平成30年5月1日から、榮佑樹さんは、宝塚育成事業所で働くことになりました。10年間、大堀川清掃やうどん打ち作業、リサイクル作業、自治会と宝塚さざんかの家で活躍してくださいました。もともと、いっぱい働きたいという夢を実現する為に、宝塚育成事業所で実習を重ねてきました。

宝塚さざんかの家でいろいろな人と出会い、人気者の佑樹さんでした。今後、きつともっといっぱいの人との出会いが待っていることでしょう。宝塚さざんかの家の仲間、ずっと佑樹さんの応援団です。

こちらの底から、「佑樹さんががんばってね！」とエールを送ります。

(大西 理恵子)



### 宝塚あしたば園

ワークプラザ宝塚から宝塚あしたば園に異動になりました支援員の荒木美和子です。「出会いがあれば、別れあり」の言葉通り、辛い別れがあり、あしたば園の利用者さんとの新しい出会いがありました。

初めて担当する利用者さんと会った時に私の支援で人生が変わる、出会うか出会わないかで、利用者さんと私の人生が全く変わってしまうと思いました。そう思うと、不安になりましたが、利用者さんの笑顔と暖かい言葉で、悩みは一気に吹き飛び、私自身が救われました。

これから、任せられた大切な人生をより良いものにする為に、専門性を磨き、支援に努めていきたいと思っています。

(荒木 美和子)



### ワークプラザ宝塚

今年度ワークプラザ宝塚では、たくさんの新しい出会いがありました。

利用者では、こやの里特別支援学校を卒業して新社会人として入所された高道祐磨さん。かしの木工房から異動になった酒井達司さん。お二人とも最初は慣れない場所での仕事に戸惑いもあったようですが、今では毎日楽しんで通所されています。職員では平賀所長をはじめ、広瀬支援員、田畑支援員、そしてわたくし三善の4名です。

3月まで京都の作業所で支援員として働いていましたが、4月から地元に戻ってきました。通勤途中で昔卒業した丸橋保育所の前を通ると、子供の頃がなつかしく思い出されます。育てられた地元で今度は私が皆さんのお役に立てるよう、一所懸命頑張りたいと思います。

(三善 雅夫)



### 宝塚めふプラザ

桜が満開を迎えた頃、人事異動等により各事業所で涙のお別れと新しい出会いがあり、めふプラザでも新年度がスタートしました。めふプラザは、皆、心待ちにしていた松永主任の復帰と新たに2名の職員が加わりました。利用者23名、職員11名、縫製職員2名という、近年まれにみる大所帯での幕開けです。

昨年度末からめふプラザ1階にオープンした「手作り雑貨めふ」では、毎日地域の方との交流があります。利用者さんの中には「上手にチラシが配れない」と悪戦苦闘される方、「1階で組紐がしたい！」と意欲的に実演販売を希望される方等、毎日お店を開けることで、新しい発見や、新しい出会いが生まれます。地域の方々にもっとめふプラザの商品を知っていただく為、めふプラザ一丸となりがんばります！

(大西 悠子)



### かしの木工房 こほま

4月よりかしの木工房こほまに配属となり1ヶ月が過ぎようとしています。

私自身戸惑いはありますが、多くの人と出会い、共に経験を積み重ねていくことで利用者の生活を豊かにできればと考えています。所長はじめ、職員全員が「サービスを受ける人の立ち場に立ち、より良いサービスを提供する」ことを常に意識しています。皆様との新しい出会いを通して、ひとつひとつ信頼を積み重ねていくことも私たち職員の使命です。利用者も職員も同じです。新しい職場、新しい人間関係・・・不安が全くない人はいないと思います。そこをどう払拭し、「自分自身」という存在をいかに最大限発揮できるのか・・・

先ずはご本人とご家族のお話を伺い、想いを引き出す事が一番大切です。「本音」を伺う事で、より良い提案や納得していただけるサービスに繋がります。一人ひとりを様々な方向から見つめ考え一緒に成長できるように寄り添いたいです。

その上で様々な想いを的確に「施設」へ繋げ、関係機関との共有を図る事が大切だと感じています。少しでも力になれるように、より多くの知識を吸収していきたいと思っています。



(趙 鋪光)

宝塚くるみの里



事業所間の異動によって新しい環境で心機一転で働くことになり... 「新しい出会い」と言うよりは懐かしい方が多く「久しぶりの再会」といった感じでした。

(井上 健太)

いきいき宝塚

新年度が始まり、新規採用で5名、異動で2名の支援員がいきいき宝塚に加わりました。特に新卒での採用となった明石伊織支援員、真鍋格支援員、清田貴美代支援員にとつては初めての社会人経験です。



(守田 卓司)

事業所市民見学会

「宝塚めふプラザ」に参加して

平成30年3月19日(月)

永年、後援会の一員として事業所市民見学会のご案内をいただいていたので、本年は「宝塚めふプラザ」と近隣でもあり初めて参加させていただきました。

私の所属する長尾地区まちづくり協議会の福祉部会は、障がいがある人もそうでない人も自由に集える「バリアフリーサロン」を毎月第4金曜日に開催しています。

「宝塚めふプラザ」は、平成21年4月1日に知的障がいのある方が自主生産品の制作を通じて、自立と社会経済活動への参加を促進するために開設された生活介護の事業所です。



先ずは溝田所長から「どんなに障がいも重くても働きましょう」を合言葉に23名の利用者はさきり織、組みも、ステンドグラス等の自主生産品の工房として作業に取り組みそれぞれ得意な事を活かした「世界に一つのものづくり」を目指していること、また、生活プログラム(屋外の散歩・清掃活動、料理・音楽活動、水泳・スポーツ活動)

や健康づくり、販売、自治会活動にも取り組んでいるとお話を伺いました。

次は参加者の希望で①さをり織のブローチ②ステンドグラスのストラップ③組みものブレスレットの3チームに分かれて作業体験をさせていただきました。



私達6人のステンドグラスチームは指導員さんのご指導のもと、初めてハンダゴテを使いながら4つの小さなガラスを合わせてストラップが出来上がりました。

2階の作業所にあがると、利用者の方が自分でものづくりの体験をすることが出来ました。山の手まきゴマをリズム良く間違わずに組んでいる様子に感動しました。

小雨の降る中での見学会でしたが最後はこむの事業所会議室でお茶とお菓子を戴きながら懇談の場をもつことが出来、とても有意義な一日を過ごすことが出来ました。

今迄の「何かしてあげなければ」から「共にありたいまえに過ぎない優しい町づくり」の大切さを学んで帰ってまいりました。

後援会会員 古田 時子

宝塚さざんか福祉会では職員を募集しています

現在さざんか福祉会では、求人募集を行っています。生活支援員(通所・入所事業所・グループホーム)、パート調理員等

http://www.sazankafukushi.org/

※生活支援員の場合

- 【内容】知的障害者の作業活動支援や食事介助等日常生活活動の支援
【給与】正規職員(大卒) 月給188,200円〜
嘱託職員(大卒) 月給187,200円〜
(別途、通勤・扶養・住居手当他支給)
臨時職員 日給8,300円 時給1,100円〜
【待遇】交通費規定支給 社会保険、有給休暇、育児・介護休業有(規定による)
【勤務時間】週2〜5日 8:45〜17:15 (うち昼休憩45分)
【勤務場所】宝塚市内の通所・入所事業所

小田切隆幸

平素は、宝塚さざんか福祉会後援会活動に深いご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。先日、ある取引先の方に、名刺を渡しました。

世間の人が、知的障がい者の方への接し方や、対応の仕方等を自然に出来れば、本人さんも親御さんもみんな笑顔の毎日となり、地域に根差した援助の体制をつくれる訳です。

最後に、一年一年が本当に早く感じます。健康管理が特に大切に感じます。この気候の変化、寒暖差にも敏感に反応してしまいます。

宝塚さざんか福祉会後援会 会長 小田切 隆幸

# 人事

## I 4月1日付人事異動

- 1 部長級**
  - ワークプラザ宝塚所長兼務を解く  
上江洲 薫 (事業所部部長)
  - 地域事業部部長・人材育成確保担当兼務  
辻井 善弘 (グループホーム事業部長)
- 2 課長級**
  - 宝塚さざんかの家所長  
山下 知一 (宝塚あしたば園所長)
  - 宝塚あしたば園所長  
谷口 篤 (さざんかグループホーム主任)
  - 宝塚けやきの里所長  
脇田 幸治 (宝塚さざんかの家所長)
  - ワークプラザ宝塚所長  
平賀 浩子 (宝塚けやきの里所長)
  - かしの木工房 (こはま所長)  
橋本 悟 (かしの木工房 こはま主任)
- 3 主任・サービス管理責任者**
  - 主任・サービス管理責任者  
宝塚さざんかの家  
大西 理恵子 (宝塚さざんかの家主任)
  - 宝塚あしたば園  
大西 僚太 (宝塚あしたば園主任)
  - 宝塚めふプラザ  
松永 仁美 (宝塚めふプラザ)
  - 宝塚けやきの里  
野口 能史 (宝塚けやきの里主任)
  - ワークプラザ宝塚  
阪口 麻紀 (ワークプラザ宝塚)
  - かしの木工房 (こはま)  
堀 京子 (宝塚めふプラザ主任)
  - 宝塚くるみの里  
福田 加奈子 (宝塚あしたば園)
  - いきいき宝夢  
伊藤 裕臣 (いきいき宝夢主任)
  - さざんかグループホーム  
稲月 康泰 (さざんかグループホーム)
  - 横田 昌則 (さざんかグループホーム)
  - 大路 明生 (さざんかグループホーム)
- 主任  
さざんかグループホーム  
八木 誠 (さざんかグループホーム)

## 4 職員

- 法人事務局 総務課  
宝塚さざんかの家 川村 智子 (総務課)
- 宝塚さざんかの家 岩崎 慎吾 (宝塚さざんかの家)
- 宝塚あしたば園 岩崎 実音 (新規採用)
- 宝塚あしたば園 荒木 美和子 (ワークプラザ宝塚)
- 宝塚めふプラザ 尾崎 顕 (いきいき宝夢)
- 宝塚けやきの里 原田 涼平 (かしの木工房 こはま)
- 宝塚めふプラザ 任用替 中井 拓郎 (宝塚めふプラザ)
- 宝塚あしたば園 大西 悠子 (宝塚さざんかの家)
- 宝塚けやきの里 平山 雅雄 (ワークプラザ宝塚)
- ワークプラザ宝塚 広瀬 哲治 (宝塚けやきの里)
- ワークプラザ宝塚 藤本 あおい (いきいき宝夢)
- ワークプラザ宝塚 三善 雅夫 (新規採用)
- かしの木工房 こはま 木ノ下 美智代 (かしの木工房 こはま主任)
- かしの木工房 こはま 趙 鏞光 (ワークプラザ宝塚主任)
- かしの木工房 こはま 中村 文二 (宝塚くるみの里)
- 宝塚くるみの里 任用替 中越 美加 (宝塚くるみの里)
- 宝塚くるみの里 井上 健太 (宝塚さざんかの家)
- 宝塚くるみの里 任用替 荒木 智子 (いきいき宝夢)
- いきいき宝夢 原田 靖貴 (宝塚あしたば園)
- いきいき宝夢 三分一 沙耶 (さざんかグループホーム)
- いきいき宝夢 清田 貴美代 (新規採用)
- いきいき宝夢 明石 伊織 (新規採用)
- いきいき宝夢 真鍋 格 (新規採用)
- さざんかグループホーム 任用替 三神 文恵 (さざんかグループホーム)
- さざんかグループホーム 元治 里恵 (宝塚くるみの里)

さざんかグループホーム 伊藤 英莉 (新規採用)

さざんかグループホーム 井上 弘章 (新規採用)

さざんかグループホーム 吉備 聖太 (新規採用)

さざんかヘルパーステーション 神尾 英樹 (いきいき宝夢)

## 5 嘱託

宝塚あしたば園 大慶 繁男 (かしの木工房こはま)

いきいき宝夢 根井 睦 (新規採用)

いきいき宝夢 鈴木 誠 (新規採用)

さざんかヘルパーステーション 伊藤 恵美子 (新規採用)

宝塚市障害者就業・生活支援センター 西 あかね (新規採用)

## 6 再雇用

宝塚さざんかの家 川村 松代

宝塚あしたば園 増田 八千代

ワークプラザ宝塚 田畑 敦彦

ワークプラザ宝塚 折田 利恵

地域活動支援センター 荒木 隆一

さざんかグループホーム 奥村 信代

## II 3月31日付退職

竹林 洋一 (宝塚あしたば園)

原田 真麻 (かしの木工房こはま)

橋本 杏奈 (いきいき宝夢)

中本 和彦 (さざんかヘルパーステーション)

伊藤 恵美子 (さざんかヘルパーステーション)

【定年退職】

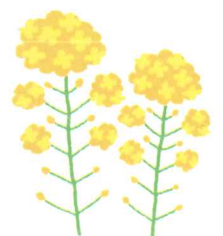
川村 松代 (宝塚さざんかの家)

増田 八千代 (宝塚あしたば園)

折田 利恵 (ワークプラザ宝塚)

荒木 隆一 (地域活動支援センター)

奥村 信代 (さざんかグループホーム)



## SazanQから挨拶



2011年2月19日、宝塚の商業地アピア2に「SazanQuali」が開店しました。

店頭に並びきれないほどいっぱいのお花と、多くのご来店のお客様に囲まれ、華々しいオープンを迎えた事が今でも鮮明に思い出されます。

日々ものづくりをする中で生まれる商品の数々、利用者の働く姿、オールさざんかの『夢』を実現させていくため、『魅せる』を意識して店作りをしてきました。

商品はお客様の声を頂き反映することで着実にクオリティの高い商品やラインナップへと進化してきました。

利用者は8名。職員共にお揃いのユニホームを着てスタッフとして運搬や販売に関り土日祝日も開店して、シフトを組んで店を切り盛りしてきました。

こうして今まで地域のイベントでしか目に触れなかったお菓子や、さをり織りを始めとする自主生産品を手にとってご覧頂きお買い上げ頂くことが出来る様になりました。

利用者さんは、まず挨拶の練習から始め

ました。店の掃除や運搬、レジの操作の他、お客様との触れ合いなど多くの経験を積み重ねる事が出来ました。

保護者の皆様、育成会、後援会の皆様、職員、福祉団体、学校関係、地域の皆様など数え切れないたくさんのお力添えを賜り、イベントへの参加をさせて頂き、たくさんのお買い上げを頂きました。まだまだ出来る事はあると思ってきましたが、諸事情により2018年3月30日をもって閉店することになりました。

これまでに頂いたご縁をこの先どのように継続していくか、販売担当者会議としては今後どのように魅せていくか、どのような形で販売活動を行い、「SazanQuali」ブランド商品を繁栄させていくか、課題は沢山あります。これは皆で考えていかねばなりません。まずは8人の利用者さんが新しい場所で落ち着いて過ごせる事を一番に考え、前に向かって進んでいきたいと思えます。

販売業務と言う貴重な経験を通して得たことは今後の糧として活かされると確信しております。

7年間ありがとうございました。



(かしの木工房 こはま 木ノ下美智代)

## 日誌

自平成29年12月1日  
至平成30年4月30日



- 12月14日 いきいき宝夢 クリスマス会
- 12月21日 くるみの里 クリスマス&忘年会
- 12月27日 ワークゆるスポーツ大会・賞与
- 12月29日 めふプラザ 忘年会
- 1月5日 けやきの里 新年会
- 1月16日 さざんかの家 保護者合同新年会
- 1月18日 さざんかの家 新年会
- 2月14日 くるみの里玄関先にテント屋根の設置完了 (宝障懇の福祉資金助成活用)
- 2月15日 いきいき宝夢 きりたんぼ作り
- 3月9・15・23日 かしの木工房 こはま 日帰り旅行 (京都水族館)
- 3月22日 くるみの里 ハイキング (万博公園)



看護師さん・栄養士さんの知恵袋

《いきいき宝夢の高齢化について》

季節の移り変わりですね。皆様体調はお変わりありませんか？

いきいき宝夢で、いま直面している大きな課題は、利用者さんの高齢化です。

身体機能の低下、新しい疾患や持病の悪化、日常生活での介助、特におむつ交換や、食事介助などがさらに増えるようになります。又、高齢者には多い誤嚥性肺炎などは再発を繰り返すのが特徴です。発熱、元気がない、だるそうにしている、食事時間が長い、食事中のむせ込みなどの症状に留意していききたいと思えます。誤嚥性の肺炎を予防する為には口腔内を清潔にすることがとても大切です。適切な口腔ケアを行い、よく水分を摂り、口の中の細菌が増えないように心がけます。

私たちは、安全に注意し、ゆとりのある生活を送って頂けるよう、生活環境を整え、健康維持と利用者さんの健康管理を心掛けて行きたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

(看護師 源野智子)



《年齢に応じた食べ方》

みなさん、自分の年齢に応じた食事のとり方をされていますか？

よく動き回る子ども時代、働き盛りの時期、年齢を重ねてゆったりと過ごす時期では、たんぱく質・脂質・糖質のとり方も変わってきます。

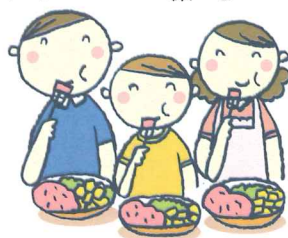
3大栄養素(たんぱく質・脂質・糖質)の中で、糖質は他より早くエネルギー源として使われます。そのため、子どもの頃は、瞬発力に対応できるように、すばやくエネルギーに変わる糖質をしつかりとる必要があります。

60代頃からは、ゆっくりとエネルギーに変わり持続性のある脂質が必要になり、瞬発力の糖質は控えめで大丈夫です。

若い頃は、糖質をたくさんとって血糖値が上がっても、インスリンがすぐに出て、エネルギーに変えてくれますが、40歳を過ぎてくるとインスリンが出てくるのが遅くなり、がんばってたくさん出し続けていると膵臓が疲れてしまいます。

エネルギーや糖質不足になると、筋肉を分解してエネルギーを作ります。血糖の上昇を抑えるたんぱく質や脂質もととり、年代に応じた糖質のとり方を意識してみてもいいでしょうか？

(栄養士 藪内一美)



編集後記

2012年の10月より後援会の広報部に入り、編集を一緒にさせていただきました。あれから早くも6年が経ち、「かしの木工房こはま」や「宝塚くるみの里」のオープンなど、事業所が2つも増えました。一方、さざんか福祉会の自慢の商品を集めて販売していた「[Sasanzan]」が閉店しました。

わずか6年ですが、様々な変化があり、時代の流れを感じずにはられません。障害特性の理解や支援の方法も増え、制度が変わり法律も増えました。一見、障がいのある人への社会の理解も進んだように見えますが、みなさんの周りではどうでしょうか？

この85号を最後に広報誌の編集委員を交代いたしますが、編集に携わることで、支援者として必要なことも再確認させていただきました。それは、我々が、障がいがあっても頑張っている利用者のことを理解し、正しく地域の人に伝えて、地域との関係性を構築して行くことの大切さです。今後「学ぶこと」と「伝えること」を繰り返しながら地域福祉に貢献できるように継続して行きたいと思えます。編集委員の仲間に加えていただき、どうもありがとうございました。

宝塚めふプラザ 溝田 康英

次号からは、宝塚さざんかの家山下知一が担当します。